

ゴキブリの生態



主要種のライフサイクル・特徴

	ワモンゴキブリ	チャバネゴキブリ	クロゴキブリ	ヤマトゴキブリ
生卵間隔	4~10日	25~50日	5~6日	4~6日
孵化数(1卵当り)	平均14	平均35	平均19	平均16
全数(幼虫の)	8~13、11(平均)日	6日	10日	9日
卵期間	35~38日(30°C) 40~45日(29°C)	21~28日(29°C)	52日(29°C) 30~32日(32°C)	34日(29°C)
幼虫期間	♂8.5、♀9.5月(29°C) 7ヶ月(30°C)	♂59日 ♀59日(25°C)	243~360日(25°C)	200~320日
成虫の寿命	200~700日	♂90日 ♀165日	♂207日 ♀197日	♂124日 ♀179日
分布	東京以西の太平洋岸大都市、奄美諸島以南	全国	鹿児島から関東まで分布。	日本在来種で東北から近畿まで分布。 南限は弓山県、北は北海道でも散見される。
越冬地	不可避(寒温帯域下の場合)	可避	一般家庭、集合住宅、ビル、飲食街、地下街、交通要閣(橋梁・隧道のある場所)	農村地帶の一般家庭、特に農家。 屋外にも生息
生息場所	一般家庭、集合住宅、商店、洋化館、マンホール、トイレなどに群生	一般家庭、集合住宅、食品工場、事務室などで優先的に生息	黒褐色。光沢があり、前胸板に明瞭な2本の長い縦縞がある。	黒褐色。クロゴキブリ似るが、体全体に光沢がない。翅の翅は短く、腹部の中央部までしかない。
成虫体色・特徴	体全体に褐色、前胸背板に淡黄色の輪状斑紋をもつ。	体は黄褐色から褐色、前胸板に明瞭な2本の長い縦縞がある。	黒褐色。光沢があり、前胸板に明瞭な2本の長い縦縞がある。	黒褐色。クロゴキブリ似るが、体全体に光沢がない。翅の翅は短く、腹部の中央部までしかない。
成虫体長	28~44mm	10~15mm	30~40mm	20~30mm



ムシの心配から お店や施設を守る

1.ベイト処理 69page

2.匍匐昆虫類対策B&G 77page

3.飛来昆虫対策 87page

4.ムシの忌避対策 99page

レストランのペスト・マネジメント

クライアントに勧めたいお店の外の環境衛生

ラリー・ピント氏

PMP

レストランの効果的なペスト・マネジメントで大切なのは、店のオーナーさんと従業員さんの協力を得ることです。成功はあなたの努力とあなたのクライアント側の協力によりもたらされます。レストラン内の基本的衛生管理（このことについてはすでに何度も書きました）もそうですが、その他にももっとあなたのお客様が留意すべきことがあります。

害虫管理におけるレストラン側の役割には店外も含まれます、食材の搬入が適正に行われているか、に始まり、店舗周囲の植込みにいたるまで考慮することです。店外における作業がどれ程ペスト問題に貢献するかをあなたはレストランのオーナーさんと従業員さんに教育しなければなりません。

■食材の搬入■

搬入される全ての食材は、検品を行い害虫等の発生、害虫による被害の兆候が搬入物にみつかれば搬入を断るべきです。
搬入口のドアは使用時以外、常に閉められているべきです。エアードアやストリップ・ドアは、飛来昆虫の侵入を防ぐために正しく取付けられ調整される必要があります。

搬入デッキの照明を減らす又は遮蔽し夜行性飛来昆虫が誘引されるのを避けます。

搬入デッキのゴミは定期的に取除き、毎日ホースで流し洗浄すべきです。

空箱やパレットは搬入デッキや裏口又はその周辺に収納しないこと。
在庫された食材は整理され、先に搬入した食材から使うようにします。
食材等の入った箱は棚や、ラック又はパレットに収納し、床面に直接置かないようにしましょう。

■生ごみ回収容器、生ごみ入れ■

生ごみ回収容器はコンクリートの床上に設置し、その周辺や下を毎日清掃します。

生ごみ回収容器、圧縮処理機、リサイクル容器は定期的に高圧洗浄又は、スチーム洗浄することが大事です。

生ごみ回収容器には常に蓋をしてください。

もし生ごみ回収容器やリサイクル容器が、いつもごみ等で溢れ蓋が出来ない場合は、回収頻度を増やすか、ごみ捨場やリサイクル容器の増設が必要です。

レストラン入り口周辺に設置されるゴミ箱にはビニール袋を入れ、蓋も自閉式のものにし、毎日の営業終了時に空にするようにします。

■レストランの設備構造■

電気、ガス、水道、電話等の建物導入部の隙間は補修又は、パテを詰めるなどコーティング処理することが大切です。
基礎部、屋根、屋根裏の通風孔は防虫網でカバーします。
ドアの隙間には進入防止のための遮蔽物を取付けます。
屋根や配管の漏れの修理は欠かせません。

■レストラン周辺の植木管理■

建物の周りの低木植栽やグランドカバーは昆虫のすみかになったり、ネズミの巣穴を隠したりします。
またごみが溜まる原因にもなりますから、ゴミ置き場の回りには植栽しないほうがいいのです。
入り口の近くや屋外の飲食エリアやゴミ箱の周辺には、花の咲く植物を植えないようにします。また、建物の基礎周辺をパークやその他のマルチング剤で覆うと、害虫に繁殖場所を提供することになるのでやめましょう。

その代わりに砂利や碎石、アスファルト又はコンクリートを基礎から60センチの周囲に敷設するのがよい方法です。

屋根の樋の傾斜調整・詰まり修理やホースからの水漏れの修理に心がけ、建物の基礎周辺の水溜りをなくしてください。

植木の枝は建物にかかるないように刈りこむようにします。

ベイトによるチャバネゴキブリの防除

ウィリアム・ロビンソン博士



■アメリカやイギリス、その他ヨーロッパのチャバネゴキブリはなぜ減少したのか？

それを説明できるたったひとつの理由というものは存在しないでしようが、いくつかの理由が組み合わさって作用したと考えられます。チャバネゴキブリの繁殖が抑えられた5～8年の間に、いくつもの出来事が複合して起こったわけです。これらのうち最も重要なのは恐らくジェル状ペイト剤の一般化と、それをC&C(クラック&クレビス)処理したことでしょう。ジェル状のペイト剤をキッチンやレストランなどの繁殖場所に仕掛けることによって、多くのゴキブリがこれを探食します。さらにC&C処理することにより、小さな幼虫や卵鞘を携帯したメスの個体にも摂食機会が与えられます。

これらの幼虫やメスはあまりたくさん食べず、繁殖場所から動かないため、このC&C処理が非常に重要になります。

小さな幼虫や卵鞘を携帯したメスを大幅に駆除することによって繁殖状況は劇的に縮小し、その後なかなか復活しません。又、割れ目や隙間(C&C)に残ったペイト剤をゴキブリは数週間摂食し続け死んでいます。通常、繁殖状況は2～3ヶ月で除去されます。建物内の全ての部屋や食物貯蔵庫、倉庫などでペイト剤を利用してチャバネゴキブリを防除すれば、繁殖の再発可能性を減少させることができます。

建築方法が改良されたことによっても、室内におけるチャバネゴキブリの繁殖可能な場所が減りました。さらに工法や材質の改良によって、チャバネゴキブリの移動が難しくなり、これまでのようにアパート間、オフィス間、レストランの間を自由に行き来することも少なくなりました。

■チャバネゴキブリの防除において、どうしてペイト剤が有効なのか？

この種のゴキブリは屋内のみ生息し、再び繁殖するとしても屋内の他の場所から移ってくるしかありません。レストランや集合住宅、オフィス内に繁殖しているチャバネゴキブリが駆除されてしまえば、再繁殖の機会は限定されます。チャバネゴキブリの「隠棲集団」は主に食料貯蔵庫や倉庫、その他の貯蔵施設に生息します。これらの場所さえ駆除てしまえば、他の場所でゴキブリを見ることはないでしょう。

■チャバネゴキブリはどの成長段階(小さな幼虫、大きな幼虫、成虫)において最もよく移動するのか？

オスの成虫が恐らく最も行動的で、広範囲を移動します。毎晩繁殖場所を出て食物を探索するのです。また、そのたびに同じ繁殖場所に帰ることはなく、毎晩違った場所に戻っています。次に活動的なのは大きな幼虫です。これらも毎晩食物や水を探しに出かけ、同じ場所に戻ることはほとんどありません。小さな幼虫やメスの成虫は最も不活発であり、ほとんど動き回ることはありません。小さな幼虫は普通、繁殖場所から出て行くことはなく、出て行ったとしても遠くまでは出かけません。必要な食物の量も少なく、繁殖場所のごく近くで調達可能です。又、卵鞘を携帯しているメスの成虫はほとんど食べたり飲んだりせず、卵鞘を携帯中の数週間は繁殖場所にとどまっています。卵鞘を産み落としてから4～6日の間、メスのチャバネゴキブリは非常に活発に飲んだり食べたりします。しかしその後、次の卵鞘が形成され始めると再び不活発になっていき、繁殖場所付近にとどまるようになるのです。

■どうしてペイト剤のC&C(クラック&クレビス)処理が最も効果的なのか？

ペイト剤をチャバネゴキブリの繁殖場所の内部や付近に設置することにより、2つの重要な集団—小さな幼虫と卵鞘を携帯しているメス—に摂食させることが可能で、長期的な防除という立場からは、この2つの集団を駆除することが最も効果的な戦略なのです。

■一旦設置されたペイト剤は、どのくらいの期間効果を發揮するのか？

ペイト剤が繁殖場所の内部に設置されれば、チャバネゴキブリはすぐに近づいてきて水分を多く含んだこの物質をすぐに食べ始めます。48時間以内にペイト剤は本来の水分を失つて乾いてしまいますが、ゴキブリは(成虫は勿論、小さな幼虫も)これを食べ続けます。調査により、ゴキブリは設置後10ヶ月も経過したペイト剤をも摂食することが確認されています。勿論それほど長く効果が持続しない場合もあるでしょうが、ペイト剤が考えられている以上に長く効果を発揮するということは覚えておかねばなりません。

■ゴキブリはどのようにしてペイト剤を見つけるのか？
ペイト剤には何か誘引物質のようなものが含まれているのか？

ペイト剤には誘引物質は特に含まれていませんが、ゴキブリは設置後間もないペイト剤に含まれている水分を嗅ぎ当てるすることができます。ゴキブリは、繁殖場所の周辺を食物探索している最中、単純にペイト剤に行き当たってこれを発見します。ゴキブリはこのようにしてペイト剤のかけらを見つけ、これを摂食するのです。

■ゴキブリがペイト剤を摂食した後、何が起こるのか？

一般にゴキブリはペイト剤のほんの一部分しか摂食しません。毎晩の食物探索の中で「少量の摂食」を何度も繰り返すゴキブリにとって、これは自然なことです。ペイト剤を摂食するとすぐに、ゴキブリの動きは鈍くなり、それ以降は摂食活動を行いません。この後24～48時間は動き回ることがほとんどなく、繁殖場所にとどまっています。そしてペイト剤を摂食したゴキブリは摂食後3日目から死に始め、5日目にはほとんどの個体が死んでしまいます。ペイト剤によって死亡したゴキブリは床にうずくまつた体勢で死ぬことが多く、従来の薬剤による死亡に見られるようにひっくり返ることはあります。



ベイト処理

ベイトガン…………… 70page

ベイトガンキット・オプション… 72page